平成 29 年 7 月 1 日発行
秋田県ボランティア・ＮＰＯ活動
ニュース県南版

県南のＮＰＯを情報でつなぐ、ささえる。

Hot And New South Akita Npo

ハンサン 7

July
2017
Vol.123

ハーモニーフォーラム
(左から奥真由美さん、高谷千尋さん、杉山彰さん、中村シュフさん)

特別講演の様子

◆表紙の紹介◆「ハーモニーフェスタ 2017 in Yuzawa」

6 月 24 日、湯沢市役所において平成 29 年度秋田県男女共同参画推進事業「ハーモニーフェスタ 2017 in Yuzawa」が開催されました。天気にも恵まれ、若いご夫婦やお孫さん連れのご一家などたくさんの方々が、参加しました（詳細は P2）。

◆目　　次◆

P 2　　ハーモニーフェスタ 2017 in Yuzawa
P 3　　活動ウォッチング　花でつながる心と笑顔プロジェクト
P 4　　わくわくげんき　　秋田県肺がんネットワーク「あけびの会」
P 5　　市民活動お役立ち情報　情報セキュリティを見直そう！
P 6　　助成金情報

あんべいいな秋田県

平成 29 年度秋田県男女共同参画推進事業
「ハーモニーフェスタ in Yuzawa」
～参画で“しあわせ実感”家庭も地域も～

6 月 24 日、湯沢市役所を会場に県主催の男女共同参画推進事業「ハーモニーフェスタ 2017」が開催され、のべ 648 人が訪れました。このイベントは、男女共同参画に対する県民の関心と理解を深めることを目的に、県内 3 地域の持ち回りで毎年開催されているものです。今年は秋田県南 NPO センターが企画運営を行いました。

子育て中の親子を対象に、子育てをテーマとし、家事育児分担や家庭の中から取り組める少子化対策等、子どもも大人も楽しみながら学べる有意義な内容となりました。

（高橋幸子）

◀特別講演「主夫になってはじめてわかった主婦のこと」講師：中村シュフ。
家事の流れの説明からのお手伝いのコツを伝授。家庭生活すべてをデザインすることが家庭円満になるなどを笑いを交えながらの熱弁！！

◀ハーモニーフォーラム「子どもが憧れる家庭をつくろう！」
家庭では性別にとらわれずにそれぞれの得意分野で家事分担をした方が自然であること。笑顔あふれる家庭を作ることが、私たちができる少子化対策などといった話題になりました。

人気者スギッチ▼

歌のプレゼント▶～いのちの理由～
横手の子育て応援誌おもちゃばこによる歌と手話。歌声が感動を呼びました。

パネル展＆お楽しみ体験ブース

みっつさんの絵本よみきかせライブ

びりとブッチィーのおもしろクラウンショー

おめでとうございます！～男女共同参画社会づくり表彰式～

（左から）チャレンジ賞の髙橋さん、県あきた未来創造部髙橋次長
ハーモニー賞の少子化について学ぶ会　三橋さん、山田さん

▶チャレンジ賞の髙橋さんは、地域農業の中で女性農業者が男性と対等に評価されることの必要性を感じ、農業分野における女性の活躍や男女共同参画を提唱。食育活動や後継者育成にも取り組み、世代交流の橋渡し役として活躍している。

▶ハーモニー賞の少子化について学ぶ会は、市民の共感がなければ男女共同参画社会づくりの推進をしていくことが難しいことを実感し、市民と共に学ぶことで意識改革を目指そうと講座等を企画している。

THEME_ボランティア／NPO

横手市元気の出る地域づくり事業「花でつながる心と笑顔」

～園芸や植物で元気になることを知ってもらう～

DATA_団体情報
園芸セラピーの会　花＊hana クラブ
代表／浅利　政子
横手市大水戸町 1-13
TEL：080-1811-3135

植物の可能性

園芸セラピーの会は、障害のある方々と一緒に花植えをしたプランターを、横手市内の一人暮らしのお年寄りの方の家に届けます。水やりなどの園芸活動を通して、お年寄りの方の日々の楽しみやはりあいになったり、障がいのある方の余暇活動や社会参加の機会になったりすること、また色々な人達の交流やコミュニケーションが広がることを期待して活動しています。6月10日、グループホームの利用者と職員、増田高校農業科学科の生徒と先生、プランター受入れの方などで、プランターの寄せ植え会が開催されました。

参加者一同記念写真

参加者の笑顔

草花や野菜などの園芸植物や、身の回りにある自然とのかかわりを通して、心の健康、体の健康、社会生活における健康の回復を図る手法（園芸療法）を知ってもらい、医療や福祉、教育、地域づくりに活用するきっかけをつくりたいと代表の浅利さんは話します。寄せ植えを始めると参加者のみなさんに笑顔がこぼれ、次回も参加したいとの声がありました。

代表の浅利さん

参加者の笑顔

未来の担い手の声　　加藤みこさん

私はスタッフとして障がいがある方達と一緒にプランターに寄せ植えをする作業を通して、何かを協力して作ることの大切さを学ぶことができました。花の配置を一緒に考えて良いプランターを作ることができ、楽しかったです。園芸療法を知ってもらい、医療や福祉教育、地域作りに活用するきっかけとするなどの目的に沿った活動をすることができました。私は今まで、障がいのある方達と接する機会が少なかったのですが、車イスの方が植えやすい方法を考えたり、植え方をわかりやすく説明したりなど役に立つことができました。

寄せ植えの様子

また作業が終わった後にお礼を言われたことが嬉しかったです。この活動に参加したことで、人の役に立つ喜びを知ることができ、他のスタッフさんと会話することもできました。こうした活動は人との交流を生み出す、大切な活動だということもわかりました。だからこのような活動が増え続けていけば、地域活性化につながっていくと考えました。今回の体験は、とても良い思い出になったと同時に、福祉系就職を希望している私にとって、将来につながるいい体験だったと思います。進路実現に向けて忙しくなる時期ですが、今回のようなボランティア活動にもっと積極的に参加したいと思えるきっかけとなりました。

左から増田高校生の佐野朱里さん、佐々木亜加里さん、加藤みこさん、佐藤凛さん

始めのうちは、緊張していた参加者の皆さんでしたが、プランターの寄せ植え作業が取り持つ良好な関係をお互いに持てたようでした。　（熊谷淳子）

高校生ライターが聴きます！

わくわくげんき Vol.3

秋田県肺がんネットワーク「あけびの会」の代表藤井婦美子さんに今までの活動内容、今後の活動への思いを横手高校定時制ライターがお聴きしました。

あけびの会代表　藤井婦美子さん

取材して感じたこと

あけびの会代表の藤井婦美子さんに、秋田県のがん患者の現状や自分達で行っている幅広いサポートについて語って頂いた。藤井さん自身も過去に肺がんを患っており、不安や孤独を味わっている。その中で「同じ病気の患者同士が体験を語り合い、励まし合うことで不安や心配を経験したい」との思いで 2003 年にあけびの会を設立した。登山イベントを開き、患者さんとの交流を通じて様々な人々との関わり合いを大切にしている。秋田県の抱える問題に焦点を当て、日々精力的に活動する藤井さんとあけびの会に注目してゆきたいと思う。今年度初の取材は僕にとっても、新しくボランティアに参加してくれた二人にとっても貴重な経験だと思う。命に対する向き合い方や様々な方々との関わり合いが、今の僕たちに一番不足していると思う。その中での今回の取材はとても意味のある濃密な時間だった。（菅原寛人）

自分自身が病気になったからこそ実体験を生かして、患者さんや家族に寄り添いたいと言う。たまたま職場の健康診断で病気が見つかり、その後肺がんになり、抗がん剤や苦しい闘病生活を送った藤井さん。最初は、古希を迎えることも不可能だと考えていたが、苦しい治療を乗り越え、物事をポジティブに考え、地域や、家族の支え合いがあり、体調も徐々に回復し無事古希を迎えることができた。「今まで学んできたことが活かされている」それを少しでも今、病気と戦っている方々へアドバイスや少しでも心の支えになりたいという思いで、地域に根ざした活動を続けていきたいと語る藤井さん。「病気は、一人で抱え込むのではなくみんなで支え合うもの。支え合うことによって苦しみを乗り越えられるんですよ」と。藤井さんの活動や、考え方は、がんや他の病気で悩んでいる人が多い秋田県ではとても心強い活動だと思う。そして、明るく前向きに物事を考えて頑張っている藤井さんもとてもすてきだなと思う。(佐藤理湖)

取材の様子

あけびの会では、電話やメールでの相談、患者会、講演会など肺がん患者の心に寄り添う活動をしている。特に患者会では、単に患者間での情報交換で自分の知識を深めるということよりも、お互いをいたわることで、人間の愛そのものを学ぶことのできる場だと藤井さんは言う。患者会を行うことで、その中で深い繋がりができ、隣人愛が生まれる。非常に印象的な言葉だった。また、この他に昨年は7月にサバイバー登山駒ヶ岳、10 月に患者大集会、12 月に鍋会なども行っており、大変充実したものになっている。サバイバー登山は一般の人も参加でき、登山を通じて交流を深めることで、肺がん患者との隔たりを無くすことも一つの目的としている。近年、医療の進化により、がんは治る病気と言われるようになった。しかし、がん患者の心のケアまではなかなか手が回らないと言われている。そんな患者の心の受け皿になっているのがあけびの会だ。これからもこの素晴らしい活動を続けられるように、患者の生の声を国に届け、秋田県民総参加でがん対策をしていくことが求められる。(諸越知美)

左から菅原寛人さん、藤井婦美子さん
諸越知美さん、佐藤理湖さん

藤井婦美子さんの連絡先
仙北郡美郷町中野字内城 120-1
TEL：0187-84-3497

THEME

情報セキュリティを見直そう！～小さな組織も狙われる時代に～

私たち市民活動団体やＮＰＯでも、個人情報を含む「様々な情報」を扱っています。もちろんしっかり管理して外部流出を防ぐ努力はしているのですが、目に見えない“データ”なので神経を使うところです。そんなおり、先月ニュースにて「世界中で被害を出したサイバー攻撃」が大きく報じられました。そして今、なんと小さな組織が標的となる事例も増えており、秋田も例外ではないのだとか。この機会に、情報セキュリティを見直してみましょう。（今拓也）

◆情報セキュリティのプロに聞きました。

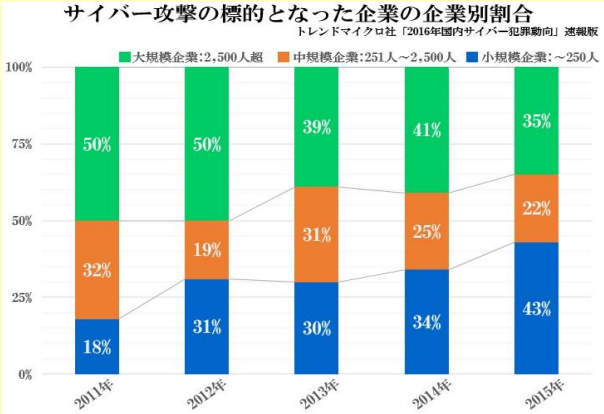
地域の現状を「㈱ツルタック ＩＴコンサルタント 太田豊秋さん」にうかがいました。

◆情報セキュリティの現状とは？

テレビや新聞、ネットのニュース等で頻繁に『サイバー攻撃』という言葉が使われています。『サイバー攻撃』とは、言わば悪意ある人がインターネットを利用して行う詐欺行為です。

パソコン・スマートフォン・タブレットは勿論、テレビ・防犯カメラ・複合機、さらには家電と、身の回りにあるありとあらゆるものがインターネットに繋がる時代となりました。そして、これから更に、それらの数は増え続けていくと言われています。

今、『サイバー攻撃』の標的として、小規模企業と呼ばれる社員数250人未満の企業の割合が増加しています。「うちは小さい組織だから…」という声をよく耳にしますが、これからの時代、小さい組織だからこそ狙われるということもあると思います。



◆太田さんは、Ｕターンされた方だと聞きました。地域の現状はどう感じましたか？

秋田県は日本一安全な県と言われているからかも知れませんが、自宅・会社問わず、ちょっとした外出時に鍵を掛けない方を多く目にします。インターネットの使い方もそうで、離席時にパソコン画面をロックしない方や、通販サイト等で使用するパスワードをパソコンに覚えさせている等、セキュリティの面で言えば非常に良くない状態（自身のパソコンを誰でも触れる環境）にしていらっしゃる方を多く目にします。インターネットの技術進歩が凄まじいように、『サイバー攻撃』の技術進歩も凄まじく、連日のように新しい手法が生まれています。そんな状況において「うちは小さい組織だから…」や離席時にパソコン画面をロックしないという認識や行動を目のあたりし非常に危機感を覚え、地元のためにできることから始めようと思いセミナーを開催しています。

“うちは大丈夫”“あまりインターネットを使わない”から『サイバー攻撃』の被害に遭わないということはありません。むしろ、そういう方々こそ『サイバー攻撃』の被害に遭う可能性がとても高いのです。

◆うかがって「あらためて見直そう」と感じました。

秋田県警察との協働にて、合同でセミナー開催という新たな活動を行った太田さん。実際に県内で起こった『サイバー攻撃』や『サイバー犯罪の実例』、そして『サイバー攻撃から身を守る方法』について講演したとのこと。「これからも地元のためセミナーなどを行っていきたい。地元の方々が少しでも『サイバー攻撃』について危機感を持ち、被害者や二次加害者にならないように尽力したい。」と語る姿が印象的でした。

秋田の小さな組織でも狙われる時代。私たち市民活動団体やＮＰＯ等も例外ではいられません。いま一度、自らの組織がどんな情報セキュリティ体制なのか？確認するところからはじめてみませんか。

◆情報セキュリティに関する相談を承ります。

南部市民活動サポートセンター（電話 0182-33-7002 木曜日休館）では、情報セキュリティに関する相談も受けております。専門的な内容に関しては㈱ツルタックが企業ＣＳＲとして協力、助言いただきます。まずはお気軽にご連絡ください。

❖助成金情報❖

自然保護助成基金 自然保護助成基金「第 28 期プロ・ナトゥーラ・ファンド助成」

日本や海外の自然保護のための，フィールドワークに基づいた基礎的な研究や，地域に根ざした自然保護グループの活動，成果の公開に対して助成を行います。

応募締切：平成２９年７月 14 日（金）
詳細：http://www.pronaturajapan.com/foundation/
連絡先：公益財団法人自然保護助成基金
TEL：03-5454-1789
FAX：03-5454-2838

公益信託 大成建設自然・歴史環境基金 2017 年度助成金

これからの地球社会の健全で持続的な発展のためには、自然環境の保全や再生、歴史的建造物等の歴史的・文化的な環境の保存や活用が必要とされています。

応募締切：平成 29 年７月 31 日（月）
問合せ先：みずほ信託銀行株式会社
リテール・事業法人業務部 福祉信託係
『公益信託 大成建設自然・歴史環境基金』 事務局
TEL：03-3274-9210

平成 29 年度第２回社会福祉施設等の整備助成

完成後１５年以上経過した保育所、障害者支援施設及び更生保護施設で老朽化等により利用上支障をきたし、その原状回復が必要と認められる事業です。

応募締切：平成 29 年７月 21 日（金）
助成限度額：5,000 千円（1/2）･･･障害者支援施設
お問合せ先：（公財）車両競技公益資金記念財団
公益事業部公益事業課
TEL：03-5844-3070（直通）
http://www.vecof.or.jp/news/2017/06/292.html

2021 芸術・文化による社会創造ファンド －2021 Arts Fund－

企業メセナ協議会では、2020 年を一つの節目と捉え、その先の未来を創造する芸術・文化の振興に向けて、「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」（略称：2021 Arts Fund）を設けています。
申請締切：平成 29 年７月 20 日（木）10 月 20 日（金）
問合せ先：公益社団法人企業メセナ協議会 事務局
TEL：03-5439-4520
https://culfun.mecenat.or.jp/collect/grant/point.html

市民活動に関する情報が集まっている
秋田県市民活動情報ネット
http://www.akita-kenmin.jp/
ぜひ参考にご覧ください。

申請書の書き方等の相談を受け付けております。
ご相談（0182-33-7002）ください。
休館日（木曜日）

編集スタッフのつぶやき VOL.3

NPO 派遣相談員
今　拓也

当事者になって初めてわかる事があるものでして。うちには２歳になる子がおります。夫婦ともども仕事が終わると一目散に帰宅して風呂にいれたり、ごはん食べさせたり、寝かしつけたり。自分が親になり、はじめてワークライフバランスや子育て環境を意識したりするものですね。今月号の記事「ハーモニーフェスタ」は、そんないろんな立場・当事者の思いや考えにあらためて触れ、感じられる場でした。当事者として秋田県は首都圏に比べると本当に子育てしやすい実感あり。人口減少はあるけど、どっこい立ち向かってる秋田の未来に暗さはない！

秋田県ボランティア・NPO 活動ニュース県南版
ハンサン
2017 年７月１日発行
７月号　VOL.123
発行：秋田県あきた未来創造部地域の元気創造課
〒010-8570　秋田市山王四丁目 1-1　TEL.018-860-1245
編集：特定非営利活動法人秋田県南 NPO センター
（南部市民活動サポートセンター）
〒013-0046　横手市神明町 1-9
南部市民活動サポートセンター
【相談受付】月・火・水・金 9：00～18：00　土 9：00～17：00
【休館日】木曜日・年末年始（12/29～1/3）
〒013-0046　横手市神明町 1-9
TEL.0182-33-7002　　FAX.0182-33-7038
E-mail：ssc7002@luck.ocn.ne.jp
http://www.kennannpo.org/project/supportcenter.html